

# 登園自粛からの Google を活用した園と家庭が繋がる実践

学校法人 七松学園 認定こども園七松幼稚園

園長 亀山 秀郎, 副園長 志方 智恵子, 主幹保育教諭 横山 菜奈, 保育教諭 堀川 茜

キーワード Google, YouTube, 双方向型オンライン保育

## 実践の概要

新型コロナウイルス感染予防のため登園自粛をお願いした園児に対して、保育者が園や職員の紹介、工作、歌、踊り、人形劇、PTA の活動紹介等の動画を撮影して、YouTube で動画配信を行った。そして、Google Meet を使った双方向型オンライン保育を行い、教育活動が切れないようにした。登園自粛解除後には、動画で配信した製作物を持って園に登園する園児の姿や双方向のオンライン保育のやり取りから繋がった幼児教育活動を園で進めることができ、保育者、園児、保護者との繋がりを深めることができた。

### 1. 目的・目標

登園自粛の要請と緊急事態宣言により認定こども園の園児の約 90%が、登園することができなくなり、保育者も出勤の自粛をしなければならなくなった。このような状況から、4月から園に来ることに期待を寄せていた園児や保護者と保育者との関係が切れることが危惧された。この課題に対応するため本園では ICT を活用した。

本実践の目的は、園が ICT を用いた情報提供や動画配信により、再開後の園児、保護者の不安を減らすこと、コロナ禍における保護者の育児不安を解消できるようにすること、ICT を用いた園児、保護者、保育者を繋ぐことである。そして、園から家庭に対して ICT を使った動画配信や、オンライン保育を提供することで、園での幼児教育活動の再開をスムーズにし、保護者支援にも繋げることをねらいとしている。

### 2. 実践内容

本園は G Suite for Education の利用ができる状態であったため以下のアプリを用いた。園児、保護者と繋がる ICT の実践としては、情報の配信とオンライン保育を非同期型として YouTube（3月末以降）、同期型として Meet（5月中）を用いて実施した。

情報の配信としての YouTube の内容は、園長挨拶・登降園について等の園紹介、担任紹介、PTA の活動紹介であった。これらの内容は、主に4月入園の園児、保護者を意識して、入園後の不安を解消することを目的とした。また進級園児については、新しい担任紹介や新しく使える玩具の紹介をすることで新学期に期待を持てるようにした（写真1、2）。

非同期型オンライン保育の YouTube の内容は、動画配信日に合わせて製作物セットを園から各家庭に郵送した。その作り方について YouTube 動画配信を行い、本来園での幼児教育として行う製作物を、家庭で取り組んでもらえるようにした。これらの動画については、保護者が必

ず一緒になくても園児だけでも取り組めるように難易度（具体的にはハサミの使い方等）を調整することで、家庭で保護者が常に関わり続けなくても良いようにすることで、子育ての負担軽減ができるように心がけた（写真3、4、5）。

同期型オンライン保育については、Meet というビデオ会議システムを使い、園児に対してクイズ問題や一緒に歌を唄ったり共同でお遊戯や簡単な製作に取り組んだりするなどして園児とオンラインでコミュニケーションを取れるようにした。この実践については、事前に園と保護者の機器のデータダイエットも必要と考え、配信時間割も作成した。実施に向けては、事前にメール連絡を行い、具体的な Meet のアプリの登録、試験接続、そしてビデオやマイクの ON/OFF 方法を周知する機会を設けた。また、緊急事態宣言下の育児不安に対応するため、希望する保護者に対しては、臨床心理士によるオンラインカ



写真1 職員紹介動画



写真2 クラスでできる機織り機の実演



写真3 郵送する製作セットと動画で作った完成見本

ウンセリングも実施した。操作方法など分からない場合には、緊急時の電話対応も行うようにして、保育者も参加者として入ることで、どのように見聞きできているかもモニタリングできるようにした（写真6）。

### 3. 成果

動画配信については、配信日から積極的に視聴される結果となった。また、同期型オンライン保育については、8割程が参加し、録画での再配信の要望があった。

登園自粛が解除され、6月から分散登園が始まり、動画配信した製作物を持参する園児や、動画提供した歌やお遊戯を覚えてきている園児の姿が見られた。園での幼児教育においても Meet で話し合ったことを園で確かめる園児の姿も見られた（写真7）。保護者からも、オンライン保育を楽しむことが出来たという感想を得た。特に、休業要請中に園との繋がりをオンラインで継続できたこととひと時でも園児と保育者が繋がる機会が持てたことが、保護者にとって安心に繋がったという感想を得た。

このような園児の様子と保護者の感想から、ICT を用

いた実践が、園と園児、保護者との関係を繋ぎ、園からの配信により幼児教育が切れることなく繋がり、保護者支援にも役立った。また図1のように、2020年9月22日時点でも動画再生回数が伸びており、繰り返し視聴されているものがある。特に、踊りの動画については、分散して行う運動参観日でも行えるようにして、動画を使った活動を園での幼児教育活動に繋げるようにしている。

本実践により、6月以降は YouTube 等の非同期の動画配信を行う体制が整い、動画編集ができる保育者が増える結果となった。園での新しい取り組みも生まれることとなった。例えば、これまで保護者を集めて行ってきた、園児の誕生会等の行事や PTA 組織が行う行事（絵本の読み聞かせ方法動画やアウトドア体験動画）の動画配信を行うこととなった。結果、希望者も例年の対面の時の約3倍にまで増えた。

園が園児、保護者と繋がる試みを積極的に行うことで、切れ目の無い幼児教育と保護者支援も提供できることが示唆された。



写真4 手順の動画作成の様子

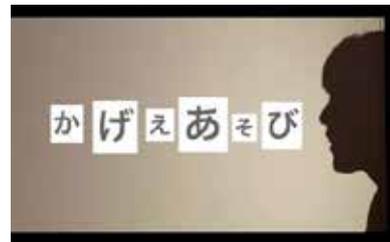


写真5 影絵遊び動画



写真6 同期型オンライン保育の様子



写真7 休業要請後に、同期型オンライン保育で話したことを園で確かめる様子を伝える保育だよりの記述

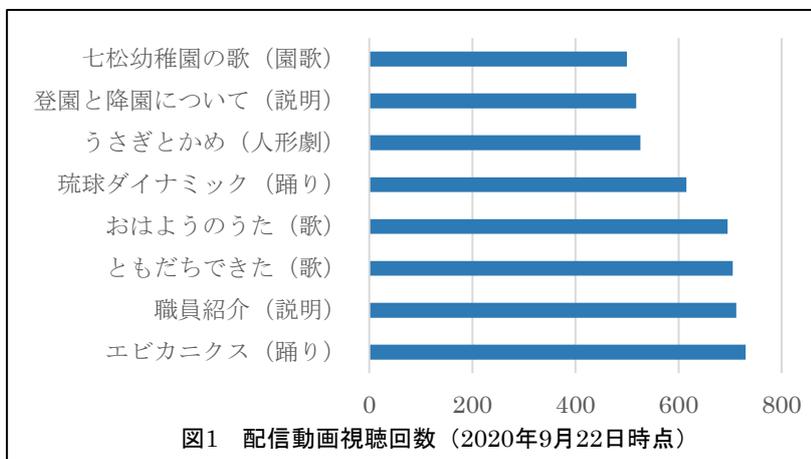


図1 配信動画視聴回数（2020年9月22日時点）